

平成 31 年 度

小 論 文

10 : 00 ~ 11 : 30

学 校 教 育 学 科
(推 薦)

注 意 事 項

1. 合図があるまで、この冊子と解答用紙を開いてはいけません。
2. 合図があったら最初に、受験番号を解答用紙の指定の欄に記入しなさい。
3. この冊子と解答用紙について、印刷の不鮮明な箇所や、汚れの箇所を見いだした場合は、すみやかに申し出なさい。
4. 解答用紙は 2 枚配布しますが、1 枚だけ提出しなさい。残りの 1 枚は下書き用です。
5. 解答は縦書きで書きなさい。
6. この冊子と下書きに用いた解答用紙は、持ち帰ってください。

課題文を読んで、以下の設問に答えなさい。

課題文

行きすぎたりペラリズム教育の結果、忘れられているものに「型」を伝える」ということがあると思います。

私自身、日本舞踊や空手などを学ぶことを通じて、「型」を伝えることの大切さを身にしてみても実感しています。そのことを広く教育・学校の現場で何とか再発見してほしいという思いがあるのです。学校の現場での基本的な型ということになると、たとえば挨拶をきちんとする、掃除をちゃんとやる、整理整頓するなどということですよ。

もちろん今だつてこうしたことはきちんと指導している先生方は多いと思います。しかし中にはそうでもない先生がいる。生徒には挨拶を要求するのに自分ほろくに挨拶を返さない先生が実際いたりするのです。たとえば、小・中と附属学校があるところで同じ敷地内にある中学校の生徒が挨拶をしても、附属小学校あたりではない新しく外部から入ってきた中学の生徒には、挨拶を返さない小学校の先生がいたりする。

荒れている学校を渡り歩いた生徒指導で有名な先生の話を聞くと、荒れている学校でまず何をしたらかという、率先して掃除をすることだそう。荒れている学校というのは例外なく汚れていて、掃除をしてもすぐ汚れる。子どもたちが荒れていると有名な地域の開校直前の学校に赴任したときに、入学式の前にまずガラスが割られ、すでに落書きがあったのだそうです。その落書きをまず消して、上履きで歩くべき廊下も生徒たちはお構いなしに土足で歩きますから、それもきれいにする。そうしたらまず最初に声をかけてきたのが、まだ若い同僚の先生だったということです。

彼はなんと声をかけてきたか。その同僚の先生は、「余計なことをしないでほしい。ただでさえ生徒指導等々で忙しいのに、率先して朝早くそんな掃除をされたのでは、われわれもやらなくてはいけなくなるじゃないですか」と言ったというのです。

二十年ぐらい前の話ですが、当時は先生方の間にも悪い意味での平等主義があつて、誰か一人が突出して何かをやることに大

きな壁があったといえます。これに対してその先生は、「私は好きでやってるんです。別に一緒にやってくれとかやるべきだと思ってるわけではなくて、一人でやってるんだから放^{ほう}っておいてくれ」と言っ、毎日続けたそうです。そうすると、次に声をかけてきたのは生徒だったということです。「先生、おれ手伝うから」と。そこから少しずつ学校が変わっていったのだそうです。

私が「型」といつているのは、基本的な振舞い方のエッセンスのようなものです。頭や心の中のレベルではなく、振舞いの形に具象化されている基本の所作。そういうある種の形を伝えていくことから入るといふことの大事さのことです。心を動かすために「心の教育」とか何か言うのではなくて、「行い」から入るといふことをあえてやってみるといふことが、子育てなんかの場合も大事だと思えます。

たとえば、子どもにとっては親が食事を作ってくれることは当たり前のことかもしれませんが、小さいころからきちんと感謝の気持ちを持つている子どもなんてほとんどいないはず。でも、食事の度に「いただきます」「ちそうさまでした」をきちんと言う習慣をつけさせる。最初は形式的な振舞いであったものが、何年も続けているうちに本当の感謝の気持ちに変わることありうろと思っています。でも食事の挨拶をろくにしつけない家庭では、親が作ってくれていることにどこかで感謝するようになる子どもは絶対に育たないと思っいます。

「親に感謝しなさい」と子どもに直接言っても、なかなか親の真意は伝わりませんが、ご飯を作ってくれたことに対して、きちんと手を合わせて「いただきます」ということを繰り返すことで、「感謝」といふ心情が、もしかしたら子どもの心に芽生えるかもしれない。

加えていいいますと、きちんとした型を身につけている人はとても「美しく」見えます。

学生たちと泊まりがけでフィールドワークに出かけた時のことです。調査を終えて旅館に着いて、さあみんなで夕ご飯という時間になりました。おいしそうな山菜料理が並ぶ御膳^{おぜん}を前にして、一人の女子学生が、背筋をすつと伸ばして両手を胸の前に合わせてお箸^{はし}を親指と人差し指の間に挟んでもちながら「いただきます」と小さく言いながら軽く会釈をしました。私はその瞬間の

所作の美しさは今でも忘れられません。いつもそんなに目立つわけではないごくおとなしい学生だったのですが、その時は本当に輝いて見えたのです。「所作の美しさ」というものに、私たちはもつと敏感になった方が良いのかもしれない。

〔出典：菅野仁『教育幻想 クールティチャー宣言』（筑摩書房、二〇一〇年）〕

設問一 傍線部アで、筆者は『型』を伝えることの大切さについて述べていますが、それはどういうことですか。課題文に即して二〇〇字以内で説明しなさい。

設問二 傍線部イで、筆者は「心を動かすために『心の教育』とか何か言うのではなく、『行い』から入るということをあえてやってみる」と述べていますが、これについて、あなたはどうか考えますか。課題文を踏まえながら、自分の体験や見聞をまじえて、六〇〇字以内で述べなさい。